

【W杯ラグビー開催中】釜石鵜住居(うのすまい)復興スタジアム



It may be the smallest, but it is built with the strongest will

▲釜石鵜住居復興スタジアムHPトップ画像より

we support
RQ
災害教育
センター

MONTHLY

「東北に黒糖を送ろう!大作戦しんぶん」改め
復興支援『すけさきた』しんぶん
かゆばん

「すけさきた」とは
宮城県登米市あたるの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である

OCTOBER
11
2019



(6月26日 FNNPRIME)
秋晴れのもと、スタジアムではいくつもの旗が
振られていた。
釜石でおなじみの大漁旗ではなく、フィジーと
ウルグアイの国旗。

恐らく今大会二番「不便な」スタジアムといつて
もいい、「釜石鵜住居(うのすまい)復興スタジア
ム」で行われたフィジーvsウルグアイの一戦。

東北新幹線で、東京駅から新花巻まで約3時
間。そこからシャトルバスで2時間。

周囲に何も無い、もちろんコンビニもない。
釜石市中心部から車で20分ほど離れた、スタ
ジアムだけがボツンとあるだけの場所。

このスタジアムの存在が今回のワールドカップ開催に際し、日本
が世界に発信したい大きなメッセージのひとつなのだ。

スタジアムがつくられた場所は、2011年の東日本大震災のと
きまで釜石市立鵜住居小と釜石東中学校があった場所。
津波ですべてが流されたその場所に、復興の象徴として、そして
W杯誘致を目指してスタジアムが作られたのだ。

私自身、このスタジアムに来たのは2回目。
初めて訪れたのは去年8月、友人のラグビー関係者に誘われ、休
みを利用して訪れた。

ちょうどその日は、「釜石鵜住居復興スタジアム」の「こけら落と
し」の日。全国から多くのラグビー関係者や地元の人が集まる中、セ
レモニーであいさつに立った一人の女子学生の言葉に心を打たれた。

『地元代表として今、私がいなければならぬことは、あどとき
釜石のために支援をしてくれた日本中の、そして世界中の人たちに
改めて感謝の思いを伝えることだと思っ』

開幕一年前のようす (画像: FNNPRIME)



「最も不便なスタジアム」が発したメッセージ

こう決意を述べたのは、釜石市で生まれ育った当時高校2
年生の洞口留伊さん。
洞口さんは、あふれる釜石への思いとともに、未来につい
てこうも語った。

『人々の思いがいっぱい詰まったこのスタジアムを通じ
て、釜石は世界とつながる』

さて、1年ぶりのスタジアムに足を踏み入れびっくりした
こと。
申し訳ないが、ちよつと立派になったスタジアムにびつ
くり。1年前に来たときは、写真▲のようにゴールポスト裏の
仮設席は存在しなかった。

ワールドカップ仕様にするため、写真手前部分には仮設
席がつくられた。
そして目立ったのは外国人の多さ。

『日本の清潔さと礼儀正しさに驚いている』と英語で話して
くれたのは、初めて日本を訪れ
たというフィジー人夫妻。なん
とこの2人、札幌、釜石、大阪な
どフィジーの試合観戦を中心に
日本に7週間滞在するという。

そして、こう語ってくれた。
『釜石で試合をするという
意味は、フィジーのテレビ番
組を見て知っていた。このスタ
ジアムは、津波が来る前は学
校があったんだ。追悼の意味を
込めて試合を観戦したい』

被災地・釜石が世界とつながった日

秋晴れのなか、両チームが入場。国歌斉
唱の前に、

「Thank you for your support during
the 3.11 Earthquake and Tsunami」
と書かれたメッセージとともに、震災でな
くなった人を悼む黙とうが行われた。

試合については、多くを触れなくてもい
いだろう。

印象的だったのはゴールポスト裏に陣
取った地元釜石市の小学生たち。
時には歌声を、時には叱咤激励を。

その声援は80分間止むことはなかった。
試合前日、フィジーの選手たちはビデ
オで東北・釜石市の惨劇を学んでいた。

メンバーの一人は「試合を通じて犠牲者
に頑張りを伝えたい」と語ったと言う。

スタジアムで出会ったフィジーの男性
は、こんなことも言っていた。

『7週間後にフィジーに帰ったら、日本
がどんなにすばらしい国であるかを友人
たちに話して、すぐに日本に行くべきだと
薦めるよ。もちろん釜石ヒストリーも含
めてね』

きょう確実に釜石と世界がつながった。
私は、洞口留伊さんと直接言葉を交わす
ことはできなかったけれど、彼女もきつとス
タジアムで「つながり」を確信したに違いな
い。(フジテレビ報道スポーツ部坂本隆之)